

ふるさと

第 22 号



王禅寺ふるさと公園の東屋

目次

- H. 29 第 5 麻生ふるさと交流会 …… (1)
講演要旨：『24 時間音楽聴き放題』
～無料で音楽ストーリーミング～ …… (5)
かじのや納豆工場見学 …… (9)
大阪物語～二人の少年～ …… (11)

発行：2018 年 4 月 28 日 (第 22 号)
発行：麻生ふるさと交流会事務局
担当：平塚 征英、横田 彰夫

麻生ふるさと交流会

表紙絵：茂木 弘 さん
タイトル：王禅寺ふるさと公園の東屋
年月日：2017.6.1 写生
場 所：王禅寺ふるさと公園
記 事：時期は春、花々が咲き乱れて
います。東屋には散策して一休み
する近隣の人たちが見られます。

「麻生ふるさと交流会」ホームページ
<http://web-asao.jp/hp2/asao-furusato/>

平成29年度・第5回麻生ふるさと交流会

場 所:麻生市民交流館 やまゆり
日 時:平成30年2月10日(土)
13時30分～17時00分
参加人数 26名、懇親会参加 24名

第1部 麻生ふるさと交流会 (13:30～15:30) 司会:宮本さん

- 開会の辞…松本会長が遅れて来たので、宮本事務局長が挨拶と本日の講演内容を説明した。



I. 講演①…秋元寿雄様:《24時間音楽聴き放題～無料で音楽ストリーミング～》

…講演要旨はp5を参照ください。

- ◇ プロフィールを自己紹介:秋元さんのふるさとは東京の品川区、大崎駅の近くで昭和9年生まれ。昭和39年から川崎市に、高石で50年近く人生の大半を過ごし、平成28年にグリーンタウンに引っ越し、新百合ヶ丘の住民になりました。
- ◇ 5～6歳の頃からレコードに興味を持ち、蓄音機からオーディオに全て自作でDIYにはまりこみました。おかげで旧式から新式まで、書斎はガラクタで一杯、奥様からは早く処分を!
- ◇ 音楽はレコード・CDで聞くものから、現在の若者はネットでダウンロードして聴くものになり、CDの売り上げは大幅に少なくなっているのが現状です。
- ◇ そこで、ネットでクラシックを聴けないものかに興味を持ち、BGMの形でいつもクラシック音楽と共にいたいと思うようになりました。
- ◇ また、ネットからならYouTubeなどもあり、映像と共に愉しみたい。
- ◇ 今回の講演のテーマである『24時間聞き放題～無料で音楽ストリーミング～』となりました。
- ◇ 音楽をダウンロードすれば、パソコン・スマホ・タブレットの空き容量が少なく成るので、ストリーミングが良いと言う結論に達しました。
- ◇ お薦めサイトの紹介:Androidエミュレーターの効用、PCディスプレイを増設、PCからアンプへの音声を取り出すには、などの説明を細かく講演して頂きました。



オーディオ機器の色々

II. 講演②…梶俊夫様：《我がふるさと会津を語る》

- ◇ 現在、会津の街の商店街は他の地方と同様に寂れています。
- ◇ 喜多方の街は観光客のおかげで、賑わっています。



梶俊夫 社長



社員の方も



喜多方ラーメン

- ◇ その後、ふるさと会津の街の紹介で DVD を鑑賞



会津磐梯山



鶴ヶ城



裏磐梯

- ◇ 宮本さんからの質疑で、しだれ桜は今でも？ 日中線は、の質問に
・カジノや社員の碓井さんのお話…日中線の線路の跡地に、しだれ桜が植えられ、桜木も今が見頃に成長し、観光客もしだれ桜を目的で来られます。



日中線跡地の”しだれ桜”

- ・日中温泉は喜多方の奥座敷、自然に囲まれた山深い地に蔵屋敷造りの一軒宿が建ち、総檜造りの露天風呂や、満天の星を仰ぐ”星見風呂”が好評。



旧日中線の懐かしい写真

- ◇ 梶社長より、創業時の新規工場開設時の苦労話
 - ・毎日 4 時起きの生活だった。
 - ・納豆の賞味期限…台湾などへの輸出もあり、冷凍で 1 年。国内向けには 10 日が望ましい。1 日でも早く食し、沢山食べてほしい！
 - ・納豆のおいしい食べ方…かき混ぜる回数は、NHK など色々取り上げられたが、多いほど良い。
- ◇ お土産にカジノヤ納豆を沢山顶きました。



第2部 懇親会 (15:40～17:00) 司会: 宮本さん

- ◇ 料理と飲み物の準備は、今回も本間さんと田中(幹)さんのお世話になりました。



- ◇ 乾杯の音頭は松本会長にお願いしました。



- ◇ 宮河さんの話…福島は浜通り・仲通り・会津地方と言われ、会津だけが地方と呼ばれています。
- ◇ カジノヤの碓井さんの話…日中線は自転車歩行車道として整備し、約 3 キロに亘って 1000 本のしだれ桜を植栽。喜多方プラザ近くには SL も展示してあります。また、子供の頃の思い出の駅舎も、そのまま保存されているのが素晴らしい。
- ◇ 宮本さんより…次回総会の案内、日時は 4 月 28 日、遠野の民話で大平さんを予定。秦野県人会への出席の案内
- ◇ 今回も有難い差し入れを頂きました。有難うございました。
日本酒: 蔵人しか飲めない新酒…宮本さん、手造りりんごチップス…宮河さん





◇ 今回も出席者全員で食したものの片づけ・机の移動・ブルーシートを片付けて頂きました。ありがとうございます。

24時間聴き放題 無料で音楽ストリーミング

～スマホで、タブレットで、パソコンで～

秋元 寿雄

1. インターネットで音楽を

レコード盤を袋から丁寧に取り出し、ターンテーブルにのせ、針を下ろす一連の動作がやがて覚束なくなるだろう。八十路も半ばにさしかかった今、別の手段を講じておくべきと考えた。FM放送を受信する感覚で、好みに合う音楽がインターネットを通して聴けるのか？ FMチューナーの役割をアプリの豊富なスマホやタブレットに委ねると、あとは番組の充実度がどうかだ。期待に応えてくれる発信元は果たして存在するのだろうか。

曲目をいちいち選び、取り込んだ上で再生するダウンロード方式だと面倒くさそうだし、名曲から一部を切り出してつなぎ合わせた、お手軽なストリーミング放送も満足できないだろう。半信半疑で探っているうちに、有名曲に偏らず、多楽章形式の楽曲も全楽章通して流す、クラシック音楽の専門サイトが、いくつか存在することが分かってきた。

2. 探し当てた、まずまずの優良サイト

Playストア(Google play)へ行く。検索キーをいろいろ変えて試したところ、「classical radio」と打ち込むと、使えるようなアプリやサイト(クラシック音楽を電波に乗せるラジオ局)が多数ヒットした。しかし、玉石混淆。そこでさらに無料であること、休止時間帯がないこと、通俗名曲に偏らず、長い曲を細切れにしないことを条件に加えて絞り込みを行った。結果、以下の3局が残った。

(1) Classical Radio

Playストアでヒットする類似名のサイト中、このサイトの目印は右のマーク。サイト内は次の40チャンネルに分けられ、プログラムが組まれている。



- ①20世紀 ②21世紀 ③バッハ ④バレエ音楽 ⑤バロック時代
- ⑥ベートーベン ⑦ブラームス ⑧チェロ作品 ⑨室内楽作品
- ⑩ショパン ⑪合唱作品 ⑫古典派音楽 ⑬クラシックピアノトリオ
- ⑭クラシックリラクゼーション ⑮協奏曲 ⑯現代音楽 ⑰イーゼークラシック
- ⑱ヘンデル ⑲ハープシコード ⑳ハイドン ㉑中世音楽 ㉒モーツァルト ㉓オペラ
- ㉔オーケストラ ㉕オルガン作品 ㉖序曲 ㉗ピアノ作品 ㉘ルネサンス期の音楽
- ㉙ロマン派の音楽 ㉚宗教的作品 ㉛ソロ器楽 ㉜ソロピアノ
- ㉝ソナタ ㉞歌曲 ㉟弦楽器作品 ㊱交響曲 ㊲チャイコフスキー
- ㊳バイオリン作品 ㊴ヴィヴァルディ ㊵管楽器作品

並び順が統一されていないように見えるが、英語表記のアルファベット頭文字順であるため、このようになっている。

内容が充実している証拠に⑳ハイドンを例にとると、交響曲はアントル・ドラティ指揮フィルハーモニア・フンガリカ、ピアノソナタはルドルフ・ブッフビンダー、弦楽四重奏曲はエンジェルス・カルテットの各全集を使い、選曲は有名作品ばかりに偏らない。全楽章を通して流し、画面には曲目・演奏者名の情報、タイム進行インジケーター、CDジャケットが表示される。



スタンダードコースは無料だが、ときどき中断して広告が入る。それを見ないと次に進まず、上級コースへの移行をかなりしつこく勧誘してくる。月額 960 円のプレミアムコースへグレードを上げると広告が表示されなくなり、音質が1ランク上がるということなのだが、アップグレードするか否かは迷うところだ。

サイトの提供者は Digitally Imported Inc. 同じ提供者による「JAZZ RADIO」は、ジャズファンにお薦めできるかもしれない(右のマーク)。



(2) Early Music Player

Ludwig App Design が提供する小規模の纏めサイト。Play ストアで選ぶときの目印は右のマーク。古楽(バロック時代とそれ以前のクラシック音楽)を主とする 11 の局を括る。美しい古楽がかなり豊富に無料で楽しめる。画面デザインが凝っていて美しいが、装飾文字がやや読みづらい。



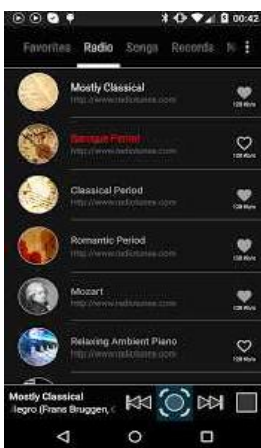
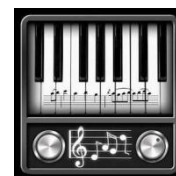
曲目や演奏者情報の表示についていえば、ばらつきがある。元局の提供情報に依存せざるを得ない事情からだろう。しかしこのサイトの良さは広告が入らず、有料コースへの勧誘もなく、完全無料という点にある。包括する 11 の局名は次のとおり。

- ①WGBH – Boston Early Music Channel ②Abacus.fm Early Music
- ③Ancient FM ④Calm Radio – Early Baroque
- ⑤CEU Medieval Radio ⑥Audiophile Baroque
- ⑦AVRO Baroque around the Clock ⑧Boston Baroque
- ⑨Positively Baroque ⑩Sunday Baroque
- ⑪Otto's Baroque Musick Radio



(3) Classical Music

約50局を集めた纏めサイト。Play ストアで探すときの目印は右のマーク。メイン画面に発信局名が見やすく一覧表示され、そこから局を選択すると演奏が始まる。



曲目や演奏者名の表示は局ごとに異なる元情報に基づくので統一されていない。楽章単位で流す局、楽曲全体にこだわる局、曲目や演奏者名が全く表示されない局が混在する。上述の(1) Classical Radio と同様に、無料のスタンダードコースから有料のプレミアムコースへアップグレードすると、音質の向上とともに広告が表示されなくなること。提供者は Maxim Kabluka。ここからは「ジャズ & ブルース音楽 – Jazz & Blues」も公開されているので、マークを右に示しておく。



3. 使用した機器

3-1 受信部(Android 端末)

①スマホ(契約解除しSIMが抜かれたスマホ) ②タブレット(月間 500KB 制限の最低料金契約で運用中のタブレット) . . . この2つで試みた(Wi-Fi 接続)。

3-2 オーディオ機器

Android 端末からのオーディオ出力を既存のオーディオ機器に繋いで聴く。ケーブルを使って繋ぐか、無線接続にするかの選択肢があるので、両方を試した。

(1) イヤホンまたはヘッドホンで聴く

イヤホンまたはヘッドホンをスマホやタブレットのイヤホンジャックに繋ぐだけのプリミティブな聴き方。Bluetooth で繋ぐならケーブルが必要ない。スマホやタブレット側での Bluetooth の設定には、「設定」→「無線とネットワーク」→「Bluetooth」ON→「ペアリングされたデバイス選択」と進むと設定される。

(2) ステレオ装置に繋いで鳴らす

一家に一台鎮座していた「ステレオ」。その座を奪った「ミニコンポ」。これらにスマホやタブレットを繋ぐと、ストリーミング音楽受信で復活する。そのアンプの AUX 端子へスマホやタブレットのオーディオ出力を繋ぐ。ケーブル接続でもよいが、Bluetooth で繋ぐと音質面で有利になる。AUX 端子が塞がっていたら、TUNER 端子や TAPE-IN 端子に繋いでも構わない。ただし PHONO 端子へ繋ぐのは御法度。周波数特性が変わってしまうから。

(3) 余っているスピーカーを生かす

蔵入りしているスピーカーを生かそう。アンプも蔵から出てくれば好都合だが、適当なものがないければ、アマゾンなどで買える中国製小型アンプも選択肢に入る。Bluetooth 内蔵、USB 入力にも対応するものを選べば応用の幅が広がる。20W×2程度の出力を持ち、数千円ほどと低価格だが性能は侮れず、クリアな音質が得られる。筆者はこれまで2台手にしたが、幸いなことに、よく働いてくれている。

スピーカーを新調するならアクティブスピーカー(アンプを内蔵したスピーカーシステム)を選ぶのも賢い。Bluetooth 内蔵・音質重視で国内有名ブランドの製品を購入し、スマホやタブレットを無線接続するだけだ。

(4) テレビに繋ぐ

スマホやタブレットをケーブルでテレビに直接接続することは通常できないので、テレビ側の HDMI 入力端子に miracast などの名称で流通している無線受信機を取り付ける。このような受信機能を内蔵しているテレビもある。スマホやタブレットから音声と画像を一緒に送り込むと、音声はテレビのスピーカーもしくは外付けスピーカーから聞こえ、スマホやタブレットの画面はテレビ画面に反映される。

スマホ、タブレット側の動作設定は、「設定」→「無線とネットワーク」→「その他」→「PlayTo」(違う表記のこともある)→「ワイヤレスデバイス設定」と進むと接続される。

4. スマホやタブレット以外で受信する方法

スマホ、タブレット以外にも次のような方法がある。

(1) アンドロイドボックスを使う

アンドロイドボックスなどの商品名で知られる端末機器が使用できる。この中身はスマホやタブレットからディスプレイを除き、AC 電源専用とした小型デスクトップ・パソコンといった内容のもので、OSはAndroid。10cm 四方×高さ3cm ぐらいの箱形の造り。デジタル出力とアナログ出力の両音声端子を大概備えている。

Wi-Fi 接続専用でアンプは非搭載。中国製。アマゾンなどで買える。値段の幅は数千円から2万円ぐらい。機能や挙動のおかしい製品に当たることもあるので要注意である。ちなみに筆者はこれまで2台潰し、3台目を騙しだまし使用している。別途ディスプレイを外付けしてモニタリングする必要がある。テレビに映してもよい。音声出力は上記3-(1)、(2)、(3)に準じて、ステレオ・アンプに繋いだり、アクティブスピーカーに接続する。

(2) Windows パソコンに Android エミュレーターを導入する

Windows パソコンに Android エミュレーターが導入できれば、スマホやタブレットのアプリが PC 上で使える。この種のエミュレーターはこれまでもいくつか紹介されてきたが、どれも組み込み手順や使用法が複雑だったり、組み込み後 Play ストア (Google play) が利用できないことなどから、一部のマニアが利用するに留まっていた。そんな中、本稿執筆中に「Nox Player」の評判が良いことを知り、導入を試みた。

Windows10 パソコンへのセットアップは容易だった。なんと組み込むとすぐ、スマホやタブレットのトップ画面とそっくりの画面が PC のディスプレイに表示されたではないか。

上述の Classical Radio、JAZZ RADIO、Early Music Player、Classical Music、Jazz & Blues の各音楽サイトはどれも、通常の手順で Play ストアから導入できた。気をよくして早速、USB オーディオ変換ケーブルを用意して、音声をアンプに導いた。



Nox Player は Android ゲーム／アプリを Windows パソコンや Mac でプレイできるようにする無料ソフト。開発元の URL は <https://jp.bignoc.com> 。香港に拠点があるらしい。

これが使えるなら、わざわざスマホやタブレットに依存する必要もない。筆者のノートパソコンはディスプレイを増設してあるので、いま第2画面に Nox Player の画面を映してバロック音楽を聴きながら、第1画面でこのレポートを打っている。

5. まとめ

iPhone や iPad の方も同様の手順で、好みの音楽サイトにアクセスすることができると思われる。ご興味があれば、パソコンや Mac でも試行されるよう、お勧めしたい。

インターネットのおかげで、今後も音楽のある暮らしが続けられそう。しかし LP や CD のコレクションを一掃する決断にはまだ至らない。ストリーミングで音楽を聴く心地良さがいま体験できたが、LP や CD を手に取り、掛け替えながら音に浸る楽しみから離れ難い。ここ暫くは半分半分でいこう。

(2017.12)

かじのや納豆工場見学記

平塚 征英

第5回麻生ふるさと交流会の3日前2月7日(水)は初午の日で、午年の会主催・ふるさと交流会共催により、「かじのや納豆工場見学会」が開催されました。

午年の会はサンキン会のTさんが言い出しっぺで、昨年1月にH・K・T・Tの4人で発足し、4人の頭文字をとって、「ひ・き・た・つ」の会と仮称しました。

その後、K・A・Yさん等の交流会メンバーや、あ・そうかい、かもく会などシニアの会メンバーも加わり、今や10名の会員となって、「午年の会」と呼んでいます。

全員が昭和17年生れの後期高齢者ですが、±12年の午年の人も拒んではいません。

鶴川「なまはげや」で懇親会を行う際には、単に飲んで楽しむだけでは勿体ないので、かじのや納豆工場を是非見学したいと考えておりました。(株)カジノヤ梶俊夫社長には、会報「ふるさと」(第13号:H.27.7.23)に「我がふるさと会津」の特別寄稿をして頂いており、その際の交渉役の松岡さんを頼るのが一番だと思いつきました。

本会でも前回実現しなかった梶社長の講演を、是非ともお願いしようとの事になり、11月下旬に、松岡さん・平塚と納豆好き人間を称する我妻さんと3人で梶社長に面会して、納豆工場見学と講演会講師を引受けて頂いた次第です。

この工場見学は一般には行っておりません。

ただし、岡上小学校の三年生50人ほどには工場見学を行っており、見学後に各自がカップに大豆を入れて発酵させ、翌日持ち帰って食べています。未来有望な子供たちに、納豆文化の継承がなされていることは大変喜ばしいと梶社長は特別寄稿に書いておられます。



工場見学者は20名と限定されたので、午年の会から8名、麻生ふるさと交流会から12名の計20名の参加者となりました。実際は午年の会8名中、交流会メンバーが7名だったので、殆どが交流会メンバーでした。

当日は14:00に鶴川駅に集合し、ゆっくり歩いて約20分で工場に到着。参加の松本会長と梶社長に挨拶している間に、参加者は2階の会議室に案内されました。

まずは、森本営業部長さんから、工場について概略説明をして頂きました。



原料の大豆が、化学肥料や農薬に出来るだけ頼らずに、自然農法に近い栽培の大豆を使っていること、安全・安心の確保のために、残留農薬・微生物・遺伝子組換え・放射能検査など、

色々な検査を行っていることに驚きました。高品質の納豆を製造する製法・設備や配送システムなどにも色々な配慮がなされています。

工場見学には衛生面での配慮が厳しく、塵一つ・髪の毛1本も落とさないようにと、頭から足先まで完全防護でした。一番大変だったのは、絶対に必要なゴム長が、小学生対象のせいかわりに16cm以上のサイズがなくて、足を入れるのがヤットだった人が数人いたことです。



まず帽子です！



会長と副会長



ゴム長は消毒液で

見学した場所は製造過程の「盛込み」の部分でした。先方に見える圧力釜で「蒸煮」作業が行われ、納豆菌のついた大豆を容器に一定量をパックする過程でした。

発酵室や包装・箱詰めなどの様子も見られました。

会議室に戻ってから、納豆菌を見せて頂いたり、製品の試食をしたりしている内に、残り10名のグループも戻り、見学会は終わりました。

見学者全員が揃った所に梶社長が挨拶に見えられました。3日後の講演会も期待が膨らみました。



帰りには全員に「かじのや納豆」のお土産を頂いて、鶴川駅に向かいました。午年の会メンバーは駅手前で皆さんと別れて、「なまはげや」でキリタン鍋など秋田料理とお酒で懇親を深めました。



少年、二人 …

福田 誠

”おっちゃん！何処探してんの？僕に解るんやったら教えてるで …”
それは、6月も末の頃、真夏の陽ざしを思わせるような昼下りのひと時であった。

少し歩いても汗が滲む。歩きながらも無意識に日陰を探していた。私は、熊野古道を訪ねて大阪のとあるところまで辿りついた。ちょっとした地図の読み違いから古道を見失っていた。

国道に架かる歩道橋の袂で地図を拡げて周りの景色を見渡していたそんな時、まったく人見知りをしないような3～4年生ぐらいと思われる二人の少年たちが声を掛けてきた。

一人は丸顔の元気がいい、人懐っこそうな子であり、もう一人は、ちょっと引き気味ではあるが、いかにも利発そうな子であった。丸顔の男の子が額に汗を滲ませて、”おっちゃん！ …”と冒頭の言葉となる。

昨今、子供達は、見知らぬ人に声を掛けられても相手になつては駄目よとか、よその人に付いて行くんじゃないよとか、とにかく知らない人とは理由もなく話をしないようにと教えられているのではないだろうか。

この少年たちは、まったくそのようなことを意に介せず、何の屈託もなくよそ者である私に声をかけてきた。彼らのあっけらかんとしたその素直さに、寧ろこちらの方が驚くと同時に少々途惑いを感じた。

私は、地図を指でなぞりながら …

”おじさんは、今この辺にいるはずなんだけど、地図と周りの景色がどうも合わないんだよ”

”どれー？ちょっと見せて… うーん確かにちょっとちゃうな…”

僅か10分ほどのやりとりであったが、その間、学校帰りの何人かの小学生達が、私たちをチラリと横目で見やりながら、我、関せずとばかり足早に通り過ぎて行った。何人かのおばさん達も通り過ぎて行ったが、皆さん同じように私たちを見る視線は、なんとなく冷たく疑りの目であった。

ボクたち！よその人と何の話しをしてるの…とでも言いたげに。二人の少年たちもその物言わぬ冷たい視線を感じているようだった。大人の身構えた疑い深さが、こうして子供達の純な心の芽を摘んでいるように思えた。

結局、私は、自分が今いる所が何処か分からないまま、あまり少年たちと長話もできないので、

”おじさん、自分でもうちょっと探してみるよ。遅くなるといけないからそろそろ帰れば …”

”そうやな、わるいけど、僕もよう解らんわ、ほんならもう行くで …”

”じゃー、気を付けてね”

二人が歩き出したとき、もう一人の利発そうな子が、踵を返して半分振り向き加減で、

”おっちゃん！この先に電車が走ってるけど、〇〇まで行くねやったら〇〇円で、もうちょっと歩いたらバスが走ってるから、バスやったら〇〇円で、電車より30円安いで …”

まったく想像もしない言葉を投げかけられて、私は、とっさの返事に窮した。でも、この子の見知らぬ人への素直なやさしさが、なぜか今でも心に残る。

”そうか、ボクよく勉強してるな、えらいな”

きつと、この子は、親からもらうお小遣いを有難く大事に大事に、少しでも無駄をしないような

使い方をしているのだろう。子どものいじらしさというか、ほほえましさというか。

大阪の人は、よくお金に細かいとか、ケチだとか、ガメツイとか言われるけど、そういうことではないことをこの子は教えてくれている。お金の有難みを本当にわかっているのは、大阪の人達かも知れない。この子の一言が妙に私の心を温めてくれた。

少年たちは、小走りで去っていった。なんだか近所のその辺にいる子供のような気がして、彼らの姿が街並みに吸い込まれて見えなくなるまで見送った。

東のまの少年たちとのやりとりは、大人たちが心の中で久しく忘れ去っていた大事なものを思い出させてくれた。こういう少年たちがいる限り、大阪は大丈夫でしょう …

まさに、大阪、ここにあり！

それは、6月も末の頃、真夏の陽ざしを思わせるような昼下りのひと時であった。

完